

月刊

GPP



Vol.78

令和4年6月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## 最近思うこと

梅雨にしては寒い日が続いていたが、急に猛暑になって、最速の梅雨明け宣言だ。

最近、RRCsを通じて活動の幅が俄然広がっている。「忙しくなった」と瞬間的に感じるときはあるが、面白いもので全体的には以前と変わらない感覚だ。そんな中で企業は勿論、自治体、行政の方々と接していると思うのは、若手の優秀な人材に出会う機会が増えたことだ。

気が付けば自分は56になったが、自分が彼らと同じ年の頃を思い出すと、実に情けない気持ちになる。能力もさることながら、その大人の言動に感心させられる。私は28の時に日本の生活に区切りをつけ、マレーシアに渡った。大げさではなく、「親の死に目には会えないかも知れない」「日本の土を踏めるのは、この先いつになるであろうか」と本気で考えながら、往路の機中にいたのをいまでも鮮明に覚えている。

そんな感じであるから、相手を気遣う余裕もなく、ただただ、ガツガツと進んでいた。恐らくギラギラだったと想像するに難しくなく、結果、現地のスタッフからは総スカンを食らった。気が付くと、私のせいで由緒正しき当時の東南アジア最大規模のコイルセンター（高炉から大きな母材を購入して、顧客の要望サイズに合わせてカットする工場）がストライキになってしまった。「あんな生意気な若造が、何で会社から車と家を与えられて、給料が何倍もするんだ」との言い分。いま考えれば、ごもったもな話だ（因みに給料は日本の大卒の半分プラスだったが・・・）

一方、最近の良く出会う20代、30代の優秀な人材は、男女問わずスマートだ。ギラギラを出さず、サラッと身をこなして、相手を気遣っている様子も伺える。自分のその頃とは雲泥の違いのように感じる。気遣っているのか、はたまた見切っているのかは、この際どうでも良い。相手の思考回路を考えながらの言動を取っている。

日本社会を否定的に捉えてきたが、そんな若い人との出会いがあって、日本はまだなだ捨てたもんじゃないと思い始めてきた、今日この頃である。まあ、まだ、自分も成長過程ではあるが・・・

藤井 成厚

# 建設現場で発生する廃棄塗料をセルドロンで。

いままで、建設現場で発生する生コンクリートの余りにセルドロンを活用いただきましたがそれ以外でも流動性のあるものがありました。

そのひとつが「**塗料**」です。塗料は同じ色を出すのが難しく、足りないと色ムラなどが発生してしまい大問題になります。

生コンクリートと同じように、必ず多めに作ります。

この余ってしまった廃棄塗料処理にセルドロンが有効です。

現在塗料の廃棄料金も価格が上がってきており、

ドラム缶(180ℓ)で33,000円以上することもあるようです。

ご検討いただける方は、ご相談いただけたらと思います。



# 仕上げ作業で発生する残コンをセルドロンで。

土間コンクリートなどの仕上げ作業で発生するモルタルの処理にセルドロンはいかがですか。

仕上げ作業で発生してしまった、残モルタルの処理に困ったことはありませんか。

セルドロンは少量の残コンや残モルタルに有効です。いままでは、バケツや舟に入れて硬化し処理に困っていた現場は、セルドロンを使っていたいただけたらと思います。

セルドロン10kg袋で、生コン0.5<sup>m</sup>、モルタルの場合は0.2<sup>m</sup>が目安です。

配合により多少ことなりますが、混合後は碎石や砂のようになります。

セルドロンは袋を開けても、室内の倉庫に保管いただければ翌日以降も使用可能です。

使い方について不明な点等ございましたらご連絡ください。



◀ 土間コン施工



▶ モルタル改質後

セルドロンに関する疑問質問は営業 土井まで



03-4405-2642